

令和 7 年 11 月 4 日

南箕輪村議会議長 様

提出者名 西森一博

## 議員研修・議員視察結果報告書

研修名または視察テーマ	第20回地方自治政策課題研修会（オンライン）
研修・視察実施場所	役場 3 階 委員会室
研修・視察の期間	令和 7 年 11 月 4 日
研修・視察の成果等	<p>講師：三菱総合研究所 松田智生 氏 演題：「長野版逆参勤交代で拓く地方創生の未来」 松田氏は、都市の人材が「移住・転職」は難しくても、「期間限定での地方滞在」は可能であるという視点から、「逆参勤交代」という新たな地方創生の形を提唱している。</p> <p>従来の「参勤交代」は地方から江戸へ人が向かうものであったが、「逆参勤交代」はその逆であり、都市の人材が地方へ一定期間赴き、地域に貢献するものである。現在、東京・大手町、丸の内、有楽町地区には約 35 万人が就労しており、売上規模は 155 兆円にのぼるなど、富の東京一極集中が進行している。そのような中で、地方にサテライトオフィスを設置し、都市人材が地方に関わる仕組みを整えることが重要とされる。</p> <p>「逆参勤交代」のプラットフォームの一つとして、三菱総研が運営する「丸の内プラチナ大学」が紹介された。</p> <p>ここでは、社会人や学生が集まり、市町村長が東京講座で自らの地域をアピールすることで、受講者の関心を高める仕組みとなっている。</p> <p>その後、現地でのフィールドワークを実施するこ</p>

とで、地元住民にも新たな刺激が生まれる。特に地元の中高生との交流は、若者の自己肯定感や郷土愛の醸成につながっている。また、農業体験（収穫・苗木植えなど）によって農家の担い手づくりが進むほか、空き家を活用した民泊事業により地域資産の再生投資が行われている。

さらに、外部から新しい人材が加わることで価値観の多様化が生まれ、地域に良い「化学反応」が起きているという。松田氏は、「まちの魅力」を発信するだけでなく、「課題」を積極的に発信することの重要性を強調した。課題を共有することで、都市部の人材が具体的な解決策を考え、地域との新たな関係を築く契機となる。これにより、「逆参勤交代」は多様な人が地域づくりに参画できる新しい仕組みとして注目されている。松田氏は、「ピンチはチャンスである」と述べ、逆参勤交代を通じて多くの人を地域に巻き込むことの重要性を説いた。現在、都会の人材と地方をマッチングする取り組みは多く存在するが、その多くは「移住・定住」を目的としている。一方、「逆参勤交代」は、さまざまな地域を訪れながら課題解決に取り組むことで、人材を共有し、「関係人口」を増やすという点で現代社会に適した魅力的な手法であると感じた。当村においても、単に地域の魅力を発信するだけでなく、地域が抱える課題を積極的に訴求することが必要であると考える。そして、課題に対して外部人材がリモートまたは短期滞在で関わる仕組みを構築することにより、関係人口の拡大につながると思われる。

今後、逆参勤交代を実施するにあたっては、地域課題の洗い出し一時滞在が可能な民泊施設の整備、サテライトオフィスの設置が重要な要素になると考えられる。「逆参勤交代」は、都市人材と地方がともに学び・支え合う新しい地方創生モデルである。地域の魅力と課題の双方を発信し、外部の力を柔軟に取り込むことで、持続可能な地域づくりが可能になると感じた。

※研修・視察終了後、議長または委員長が定めた期日までに提出すること。